

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

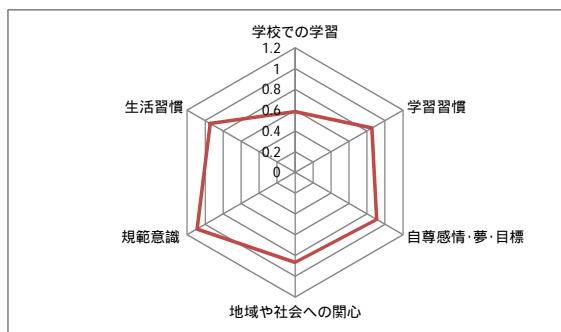
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B,算数A・B,理科)の結果

本年度の結果	国語 A		国語 B		算数 A		算数 B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語 A	全体的な傾向や特徴など	「読む」ことにより、登場人物の心情を読み取ったり、必要な情報をつかみ取ったりすることを苦手としています。漢字は、問題によって正答率が分かれます。日常的に使ったり、目に触れたりする問題はよく書けていますが、そうでない問題の正答率は低い傾向です。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	相手や目的に応じて、自分が伝えたいことについて、事例などを上げながら筋道を立てて話す問題は、正答率が比較的高くなっています。	
	努力が必要な問題	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える問題は努力が必要です。漢字は日常的に使ったり目に触れたりしない字の正答率が低くなっています。	
国語 B	全体的な傾向や特徴など	活用問題に関しては、「読む」課題の正答率は低い傾向です。目的に応じて内容を読み取ることの正答率が低い傾向です。回答の方法として、選択式と記述式では、選択制の正答率が高いです。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し合いの参加者として、質問の意図を捉えるなど、話すこと、聞くことの問題は、他の課題よりも正答率が高くなっています。	
	努力が必要な問題	目的に応じて、分掌の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく問題は努力が必要です。	
算数 A	全体的な傾向や特徴など	「数と計算」の領域では、少数の入った割り算や単位量当たりの計算の問題の正答率が低いです。また、折れ線グラフの読み取りに課題がありました。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	面積と量の関係から込み具合を見る問題は、正答率が比較的高くなっています。角度を求める問題や、円周率も正答率が比較的高くなっています。	
	努力が必要な問題	「数と計算」の課題は、単位量当たりの計算や除数が小数になる問題は努力が必要です。	
算数 B	全体的な傾向や特徴など	「グラフを読み取る問題」や「情報を解釈する問題」の無回答率は高いです。基本的な数量関係の知識・理解が不十分があります。特に図形の問題は正答率が低いです。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数値を表に整理し、条件に合うものを選択する問題は正答率が、比較的高くなっています。	
	努力が必要な問題	敷き詰められた図形の中から条件に合うものを見出すことや角の集めたものが360°になることなどの理解が不十分でした。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に無回答率が低く、最後まで粘り強く問題に取り組んでいます。水の働きなどの自然現象の知識・理解を問う課題の正答率が低いです。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	水位の変化から、上流の天気と下流の水位の関係を選ぶ課題の正答率は全国平均よりも高くなりました。	
	努力が必要な問題	堆積作用や電池の回路の仕組みなど理解が不十分のため努力が必要です。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
宿題を行うことは、比較的でできていますが、宿題以外の学習に取り組んだり、計画的に学習に取り組んだりといった、主体的に学習に取り組む姿勢に課題があります。家庭での過ごし方もゲームやインターネットを行っている子どもが多く、家庭学習の時間が短い傾向にあります。認められる経験が少なく、自尊感情の低さがうかがえます。そのため、社会に役立つ人になりたい、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるなどの肯定的回答は全国平均に比べると低い傾向が見られます。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎基本をしっかりと身につけさせていく必要があります。そのためには、各担任が授業改善を図り、児童がわかる授業を行うようにしていかなければなりません。普段の授業を充実させ、めあて、まとめ、振り返りを確実に行うことや書く活動、話し合う活動など主体的な学習を通して、着実に学力を身に着けさせていくことが重要です。視覚的支援や集中がしやすい環境づくりに努め、子どもたちが学習しやすい学校・学級にしていきます。教職員が協力して子どもたちのために取り組んでいきます。

家庭生活習慣等に関する取組

宿題などの与えられた課題は行ってきますが、主体的に学習に取り組む姿勢に課題があります。保護者の方も子どものノートや教科書を見て、今、どんな学習をしているのだろう、ちゃんと理解しているかなど関心を持って子どもたちと関わっていただけるとよいと思います。肯定的な言葉かけを行うことで、自尊感情が高まり、社会へ対して目を向けることができる子ども